高齢社会への対応を探る会の公開催し

医療・介護新時代の“終の住処”をどう考える

～見直しのポイントを聞いて語り合いましょう～

「これからは病院や施設でなく、できるだけ自宅や集合住宅で最期を」、
「特別養護老人ホームへの入所は要介護3以上から」、
「自宅や集合住宅での老後を支える包括ケア体制は市町村で工夫を」、
―など、こんどの医療・介護制度改革には、私たちの“終の住処（ついのすみか）”選びの考え直しを迫る改正があちこちにあります。

この集いでは、講師からこの医療・介護新時代の終の住処を考えるポイントや、高齢者の住いをめぐる新しい動きなどを解説していただきます。そのあと、ご参加のみなさん同士で、ご自分の終の住処についての思いや、我孫子市内外の高齢者のための施設や住宅の情報などを語り合い、最後に講師のコメントをいただきます。

住み慣れた我孫子での老後を考える機会として、ぜひご参加ください。

平成28年2月3日（水）13:30～16:00（開場13:00）

●会　場：我孫子市生涯学習センター「アビスタ」ホール

●定員：130人（当日先着順、申し込み不要）　**●参加費：無料**

日程：

①（13:40～14:30）

基調講演：「“終の住処”見直しのポイント」

福祉ジャーナリスト、前・日本経済新聞社編集委員　浅川澄一氏

日本経済新聞社在職中から、高齢者福祉分野を担当。退社後も海外調査を含めてこの分野の調査研究を続けておられる。本会は平成17年、「有料老人ホームの動向と課題」をテーマに講演をお願いした。今回はその後登場したサービス付き高齢者住宅（サ高住）など、終の住処の供給体制の変化などを含めて解説していただく。

②（14:30～15:20）

グループ別意見交換：「終の住処―私はこう思う」

③（15:30～16:00）

グループからの発表、講師によるアドバイスとまとめ

【主催】 我孫子市　【企画運営】 高齢社会への対応を探る会

問い合わせ：電話・ファックス04－7105－5292（加藤）